

■リハビリテーション科

1. 2021年度の目標及び方針

1) リハビリテーション科専門医養成

当院のリハビリテーション科は、日本リハビリテーション医学会の専門医研修プログラムの基幹病院となっている。民間病院が基幹となっているプログラムは数少ない。この特徴を生かして、今後も専攻医の募集を行うこととする。これにより、新事業所展開の際にも安定した人材の確保をめざす。

2) G棟リハビリテーション室への移行

診療スペースの移動にあわせ、診療内容もアップデートを行う。基幹の研修プログラム拠点としてふさわしい施設とする。

3) 質の高いタスクシフト

医師が外来や手術など、医師本来の業務に専念できるよう、関連業務の一部を支援できる医療職の育成をめざす。

2. 2020年度評価

1) リハビリテーション科専門医養成

リハビリテーション科は新専門医制度における基本領域に設定されている。千葉県は特にリハビリテーション科専門医が不足している地域であり、地域の専門医を育成することが急務の課題である。2020年度は2名の専攻医が採用された。

2) 関連事業所の診療品質改善

亀田森の里病院などの関連事業所にリハビリテーション科指導医が月に1回程度訪問し、現地の療法士指導などを行った。また、Office365のツールを利用して、リモートでの診療相談を受ける体制も整備した。

3) タスクシフティング

リハビリテーション科医師は求人倍率が最大となっており、全国的に不足している。今後も関連事業所の全てにリハビリテーション科医を配置することは困難である。リハビリテーション科医業務をサポートできる診療能力を持つ療法士の育成を継続的に実施した。

3. リハビリテーション科の業務紹介やスタッフ数など

1) 業務紹介

総合病院では急性期リハ、回復期リハとして亀田リハビリテーション病院、維持期リハとして亀田クリニックで機能分担をしている。急性期リハでは発症早期から療法士が介入することで最大限の機能回復を引き出し、合併症の予防を行う。急性期を乗り切った患者さまおよび御家族の心配されることは、退院後どのような生活ができるかということである。科学的根拠に基づく予後予測をし、それによる訓練プログラムを作成し、ゴール設定をする必要がある。回復期リハでは設定されたゴール目標に向けてリハビリを継続し、患者さまに安全な生活を送って頂けるよう最終調整を行う。慢性期の患者さまでは、獲得された機能を低下させないよう、適切な維持期リハが必要となる。リハビリテーションは患者さまを中心とし、多職種によるチームアプローチが必要となる。さらにリハの対象となる症例では重度の疾患を持っていることが多く、合併症のリスクも低くはない。これらを管理するのが

リハビリテーション科医師の主たる業務となる。

2) スタッフ紹介

宮越浩一（リハビリテーション科部長）：1996年岡山大学医学部卒業、日本リハビリテーション医学会指導責任者・専門医・認定臨床医、日本整形外科学会専門医・認定脊椎脊髄病医、日本臨床栄養代謝学会認定医、日本リハビリテーション医学会代議員、診療ガイドライン委員会副委員長、社会保険等委員会委員、日本がんリハビリテーション研究会理事、千葉県NSTネットワーク世話人

永田智子（亀田リハビリテーション病院院長）：1990年島根医科大学卒業、日本リハビリテーション医学会指導責任者・専門医・認定臨床医、日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本義肢装具学会専門医、日本リハビリテーション医学会代議員

佐藤謙（リハビリテーション科医長）：2007年岩手医科大学卒業、日本リハビリテーション医学会専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医、日本老年病学会専門医

小川齊宏（リハビリテーション科医員）：2007年慶應義塾大学医学部卒業

小澤里恵（リハビリテーション科医員）：2016年千葉大学医学部卒業

小川尋海（リハビリテーション科専攻医）：2017年埼玉医科大学医学部卒業

大隈知弘（リハビリテーション科専攻医）：2016年東海大学医学部卒業

久手堅憲太（リハビリテーション科専攻医）：2018年琉球大学医学部卒業

4. 年間活動内容と実績など

1) 亀田総合病院リハビリテーション部門の診療管理

総合病院における中央診療部門管理を行っている。リハビリテーションの対象となる患者さまのリハビリプログラム作成（ゴール設定やリスク管理）、経過のフォロー、嚥下障害、高次脳機能障害などのコンサルテーションを行っている。療法士数、リハ処方件数などはリハビリテーション事業管理部の統計を参照。

2) 亀田クリニック外来

外来は火曜日、金曜日、土曜日に開設している。主として亀田リハビリテーション病院・総合病院退院後の患者さまのフォローを中心としている。その他に高次脳機能障害や嚥下障害などの障害をもつ患者さまの外来加療も行っている。他地域からのセカンドオピニオン目的の受診もある。

2) 亀田リハビリテーション病院

56床の病床を持つ回復期リハビリテーション病院が開設されている。当科医師により入院患者様の受け持ちなど診療体制の支援を行っている。

5. 学術関係

原著論文

佐藤 謙ほか：回復期リハビリテーション病棟に入院した高齢脳卒中患者において入院時肥満がリハビリテーションに与える影響。学会誌 JSPEN2；124-133，2020

佐藤謙：回復期リハビリテーション病棟に入院した高齢脳卒中患者における自宅退院予測因子の検討。Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science11；43-48，2020

永田智子：急性期治療における高齢外傷性 脊髄損傷患者の嚥下機能と栄養 状態、呼吸機能および代謝の検討：日本脊髄障害医学会誌 34(1) 148-150，2021

書籍

宮越浩一（編）：画像評価. 医学書院、2020年12月

宮越浩一（編）：がんリハビリテーション実践マニュアル、2021年3月

総説

永田智子：摂食嚥下訓練における安全管理. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine58; 262-268, 2021

永田智子：回復期リハビリテーション病棟における嚥下障害・窒息のリスク管理. MB Medical Rehabilitation (251): 39-44, 2020.

永田智子：地域基幹病院と地域医療のICT連携—行政主導の地域連携カルテ「まめネット」. 総合リハビリテーション 48 (10) , 1009-1012, 2020

小山照幸：回復期リハビリテーション病棟における胸痛. MEDICAL REHABILITATION250; 86-92, 2020

宮越浩一：リハビリテーション医療における安全管理. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine58; 242-246, 2021

宮越浩一：回復期リハビリテーション病棟における質と安全の管理. MEDICAL REHABILITATION251; 1-7. 2020

宮越浩一：回復期リハビリテーション病棟における腰痛. MEDICAL REHABILITATION250; 151-157, 2020

宮越浩一：がんのリハビリテーション 診療ガイドラインをどう活用するか. 総合リハビリテーション 48; 663-667, 2020

宮越浩一：転倒リスクアセスメントと予防. 総合リハビリテーション 48; 657-661, 2020

桂井隆明：回復期リハビリテーション病棟における重篤な合併症対策. MEDICAL REHABILITATION251; 13-18, 2020

小川尋海ほか：レズビアン・バイセクシュアル女性の健康問題とケア. 治療 103; 111-116, 2021

学会発表

永田智子：肺炎により集中治療管理を要した慢性期頸髄損傷の検討：第57回日本リハビリテーション医学会（京都市、京都府）2020年8月20日

永田智子 急性期治療における高齢外傷性脊髄損傷患者の嚥下機能と栄養状態、呼吸機能および代謝の検討 第55回日本脊髄障害医学会（横浜市、神奈川県）2020年9月5日

永田智子：摂食・嚥下障害の治療の視点. 第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会、神戸市、2020年11月20日

佐田七海子：当院におけるNST会議の新たな取り組みについて中間報告. 第57回日本リハ医学会学術集会、神戸市、2020年8月20日

小山照幸：回復期リハビリテーション病棟からの緊急転院例の検討. 第57回日本リハ医学会学術集会、神戸市、2020年8月21日

小川尋海：両下肢筋力低下がある成人に対してカーボンアンクルセブンをを用いたカーボン両短下肢装具を作成した1例. 第57回日本リハ医学会学術集会、神戸市、2020年8月22日

宮越浩一：がん患者の運動器障害とリハビリテーション治療. 第57回日本リハ医学会学術集会シンポジウム、神戸市、2020年8月22日

院外講演（WEB講演含む）

宮越浩一：急重症回復医学的危険管理. 第十届寒地心脏病学会议、哈尔滨市、2020年7月11日

宮越浩一：急重症回復医学的危険管理. 两岸心肺重症康復論壇、泉州市、2020年8月23日

宮越浩一：运动康复的风险控制管理. 中医药学会运动医学分会、福州市、2020年10月17日

永田智子：診療ガイドラインと現場の安全管理. 第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会規定講習（医療安全）、神戸市、2020年11月22日

宮越浩一：がんのリハビリテーション診療ガイドラインを実臨床に活かす. 日本緩和医療学会学術集会教育講演、オンライン、2020年8月

宮越浩一：医療安全と診療ガイドライン. 第57回日本リハ医学会学術集会教育講演、神戸市、2020年8月22日

宮越浩一：リハビリテーション医療における安全管理. 日本リハビリテーション医学会東北地方会、オンライン、2021年2月29日

文責：宮越浩一